

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率

月次指標の早期推計：11月レポート

野村亮輔（副主任研究員）
稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 上席研究員）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: nomura-r@apir.or.jp

ポイント

●12月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

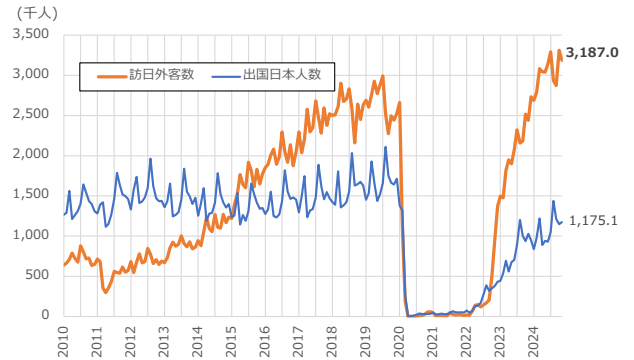
▶JNTO 訪日外客統計によれば(図1及び表4)、**11月の訪日外客総数(推計値)は318万7,000人**となった(前年同月比+30.6%)。紅葉シーズンによる訪日旅行需要の高まりに加え、航空便数の回復もあり、2カ月連続で300万人超の水準となった。なお、**1-11月累計の訪日客数は3,337万9,900人**となり、**過去最高であった2019年の水準(3,188万人)を上回った**。また、**出国日本人数は117万5,100人**(同+14.4%)となり、**5カ月連続で100万人超の水準**となった。19年同月比では-28.4%と24年1月(同-42.3%)の減少幅から14%ポイント程度縮小したものの、依然コロナ禍前の水準を回復できていない。なお、19年平均為替レートは109.01円、24年平均は151.48円となっており、この間円安が39.0%進行した。

▶訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると(図2及び表4)、**11月は韓国が74万9,500人**(前年同月比+15.3%)で**最多**であった。次いで中国が54万6,300人(同+111.5%)、台湾が48万8,400人(同+21.0%)、米国が24万7,500人(同+34.0%)、香港が22万7,100人(同+13.3%)と続く。

▶**目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば(図3及び表5)、9月は287万2,487人**(前年同月比+31.5%)。うち、**観光客は254万4,751人**と、**9月として過去最高値を更新した**(同+33.6%)。また、**商用客は10万3,703人**(同+6.0%)、**その他客は22万4,033人**(同+23.5%)であった。

▶2024年12月27日に**政府は2025年度の予算を公表**。観光庁の関係予算は(1)「持続可能な観光地域づくり」、(2)「地方を中心としたインバウンド誘客の戦略的取組」、(3)「国内交流拡大」、(4)「その他(経常事務費等)」の項目からなる。総額530億3,300万円のうち、(2)が464億円1,800万円(87.5%)と最も大きいシェアを占める。(2)のうち、「**戦略的な訪日プロモーションの実施**」では130億円計上されており、**大阪・関西万博を契機に、日本各地へ誘客を促進するプロモーション**が行われる予定である。今後、プロモーションを効果的に進めていく上で、SNSやインフルエンサー等の活用も重要となる。すなわち、国・地域別にターゲット層を設定し、**外国人目線に基づいた旅行コンテンツなどをタイムリーに訴求することが必要**となろう。

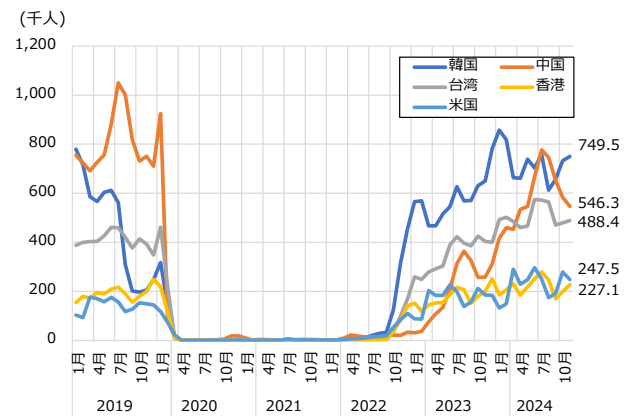
図1 訪日外客数及び出国日本人数の推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成

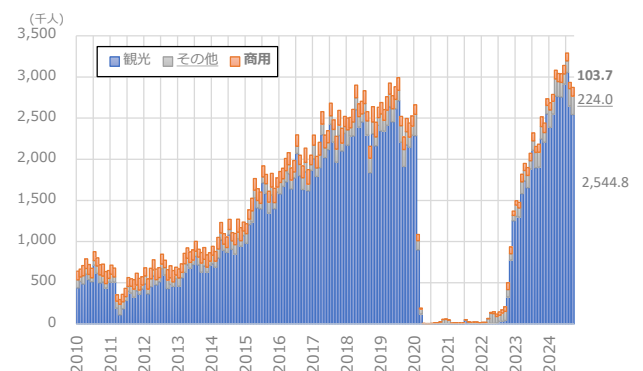
注) 2022年まで確定値。23年、24年1-9月は暫定値、24年10-11月は推計値

図2 上位5カ国・地域別訪日外客数の推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成。

図3 目的別訪日外客数推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成

注) 目的別訪日外客数については訪日外客数(推計値)から2カ月遅れて発表される。「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる。

*なお、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の訪問率のデータが2023年9月から公表が再開された。このため、中断していた訪問率の月次推計についてはデータの蓄積を待って今後再開する予定である。

トピックス 1

● 11月関西の財貨・サービス貿易及び10月のサービス産業動向

▶ **関西 11月の輸出額は前年同月比+2.4%と2カ月連続で増加した** (前月: 同+4.0%)。一方、**輸入額は同-4.9%と8カ月ぶりの減少** (前月: 同+4.6%)。結果、**関西の貿易収支は+2,269億円と10カ月連続の黒字**となった(図4)。輸出が前年比増加し、輸入が同減少したため、**黒字幅は同+117.9%と3カ月ぶりに拡大した**(前月: 同-1.4%)。

▶ 対中貿易動向をみると(図5)、**関西 11月の対中輸出は前年同月比+0.8%と小幅ながら2カ月連続で増加した**(前月: 同+3.1%)。輸出増に寄与したのは非鉄金属や科学光学機器等であった。また、**対中輸入は同-0.0%と2カ月ぶりの減少**(前月: 同+13.1%)。輸入減に寄与したのは音響・映像機器(含部品)や衣類及び同附属品等であった。

▶ **11月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は83万8,503人となり**(前月: 82万9,341人)、**過去最高値を更新した**(図6)。前年同月比+26.3%とコロナ禍の影響が完全に払拭された24年1月(同+84.7%)以降、着実に2桁の伸びが続いている。**外国人入国者数は堅調に推移している**といえよう。一方、11月の日本人出国者数は22万3,427人、前年同月比+20.7%となった(前月: 同+32.1%)。なお、19年同月比では-30.3%と、前月(同-33.3%)から減少幅は幾分縮小したものの、依然回復ペースは遅い。

▶ **サービス業の活動は一進一退の動きが続く**(図7)。サービス業の生産活動を示す**第3次産業活動指数**(季節調整済み: 2015年平均=100)をみれば、10月は102.3で前月比+0.3%小幅上昇し、**3カ月ぶりのプラス**となった(前月: 同-0.1%)。10月を7-9月平均と比較すると、-0.2%小幅低下した(7-9月期: 前期比+0.5%)。一方、**対面型サービス業指数***は97.7で同-0.8%低下し、**2カ月ぶりのマイナス**(前月: 同+2.6%)。うち、**飲食店、飲食サービス業**(同-2.3%、2カ月連続)や**娯楽業**(同-2.4%、3カ月ぶり)が**低下に寄与**した。結果、10月の対面型サービス業指数は7-9月平均比+0.5%上昇した(7-9月期: 前期比+0.4%)。

▶ **観光関連指数****(2015年平均=100)は(図7)、94.0と前月比+0.1%小幅上昇し、**2カ月ぶりのプラス**(前月: 同-1.1%)。うち、**宿泊業**(同+4.6%、3カ月連続)、**道路旅客運送業**(同+5.2%、2カ月ぶり)等が**上昇に寄与**した。10月の観光関連指数を7-9月平均と比較すると、-0.0%小幅低下した(7-9月期: 前期比+1.3%)。

*対面型サービス業は、運輸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、その他の生活関連サービス業及び娯楽業を指す。

**観光関連指数は第3次産業活動指数のうち、観光庁「旅行・観光サテライト勘定」の分類に対応する、鉄道旅客運送業、道路旅客運送業、水運旅客運送業、航空旅客運送業、旅客運送業、その他のレンタル、自動車賃貸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、旅行業、映画館、劇場・興行団の各指数の加重平均。

図4 関西 対世界貿易の推移

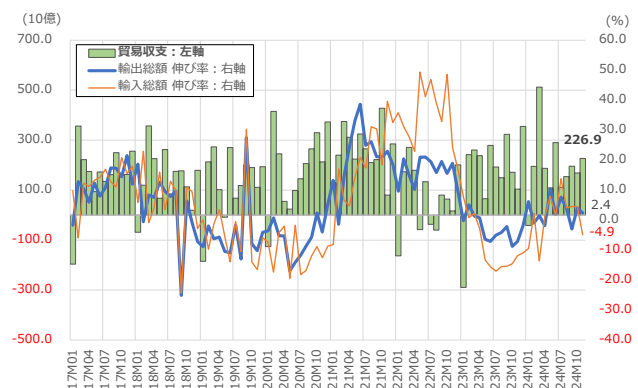
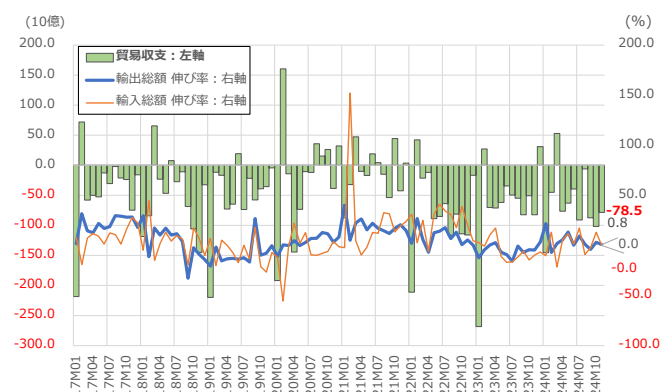
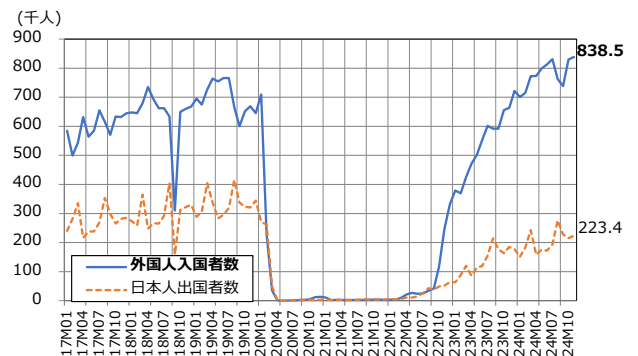


図5 関西 対中貿易の推移



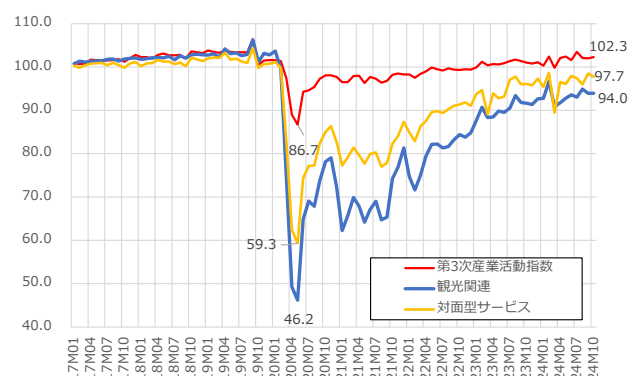
出所:「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」より筆者作成

図6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所:出入国管理統計より筆者作成。2024年11月値は速報値

図7 観光関連 対面型サービス 第3次産業: 2015年=100



出所: 経済産業省「第3次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

●9月延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶観光庁によれば、9月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は**10,896.8千人泊**であった(表1)。前年同月比では+2.3%と前月と同じ伸びであった。

▶**日本人延べ宿泊者数は7,385.6千人泊**となった(表1及び図8)。前年同月比-3.3%と2カ月連続で減少した(前月：同-4.6%)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府2,550.3千人泊、京都府1,341.7千人泊、兵庫県1,244.4千人泊、三重県670.6千人泊、滋賀県355.5千人泊、和歌山県306.4千人泊、福井県280.3千人泊、鳥取県241.5千人泊、徳島県202.2千人泊、奈良県192.7千人泊であった。前年同月比でみると、**京都府**が同-17.0%(16カ月連続)、**大阪府**が同-5.8%(3カ月連続)、**滋賀県**が同-9.7%(2カ月ぶり)や**和歌山県**が同-2.5%(2カ月連続)と**それぞれ減少**しており、日本人延べ宿泊者の減少に寄与した。中でも、**京都府は日本人の宿泊が1年以上減少**しており、また2桁の減少が13カ月連続となっている。

▶**外国人延べ宿泊者数は3,511.2千人泊**となった(表1及び図9)。前年同月比+16.5%と前月(同+24.0%)から増加幅は縮小したものの、**9カ月連続で2桁の伸び**が続いており、外国人延べ宿泊者は堅調に推移している。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府1,924.7千人泊、京都府1,307.9千人泊、兵庫県116.0千人泊、和歌山県70.0千人泊、奈良県29.3千人泊、滋賀県19.5千人泊、三重県15.9千人泊、徳島県12.5千人泊、鳥取県10.6千人泊、福井県4.9千人泊であった。前年同月比をみれば、**大阪府**が同+16.1%(32カ月連続)や**京都府**が同+16.7%(30カ月連続)、**兵庫県**が同+35.7%(26カ月連続)、**和歌山県**が同+24.7%(28カ月連続)、**鳥取県**が同+48.4%(25カ月連続)、**徳島県**が同+16.4%(26カ月連続)、**奈良県**が同+0.5%(3カ月ぶり)と、7府県が**外国人延べ宿泊者の増加に寄与**した。前月のレポートで指摘したように、**京都府では外国人宿泊者数の伸びは依然高いが、宿泊料金高騰の影響もあり、日本人宿泊者数は依然減少が続いている**(図10)。

図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

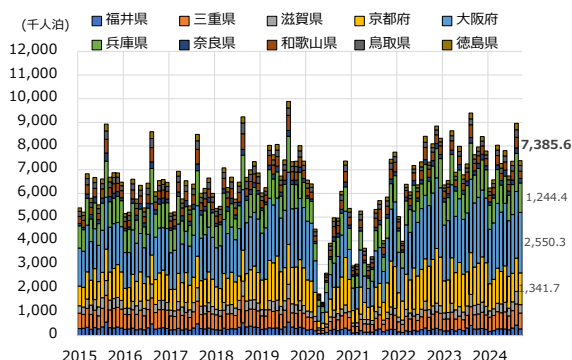


図9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

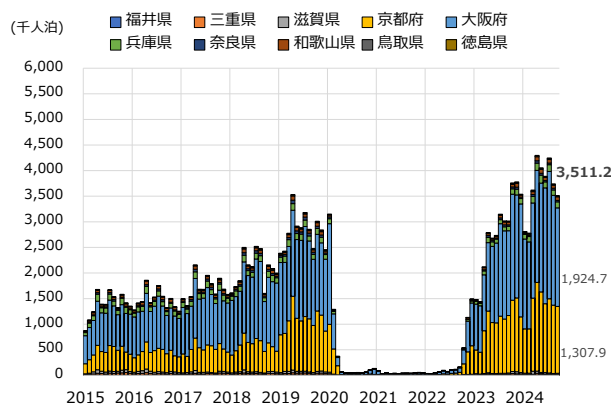
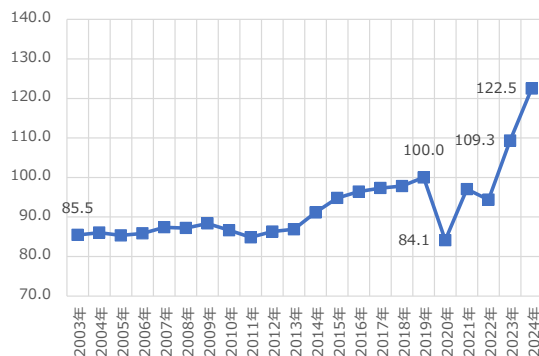


図10 宿泊料金を巡る状況(宿泊料/現金給与総額)



注) 宿泊料金(消費者物価)と賃金(現金給与総額)の相対的関係をみている。2019年平均を100。2024年は1-11月平均値。

出所) 総務省統計局『消費者物価指数』及び厚生労働省『毎月勤労統計調査』

表1 関西 延べ宿泊者数伸び率：9月

2024年9月	総数			日本人			外国人		
	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	前年比伸び率： 前月(%)
福井県	285.2	1.2	3.1	280.3	1.2	3.5	4.9	-1.8	-28.9
三重県	686.5	10.5	13.0	670.6	11.2	13.0	15.9	-12.3	17.2
滋賀県	375.1	-10.3	0.4	355.5	-9.7	1.5	19.5	-19.8	-24.1
京都府	2,649.5	-3.2	-3.0	1,341.7	-17.0	-20.3	1,307.9	16.7	25.9
大阪府	4,475.0	2.5	2.8	2,550.3	-5.8	-9.3	1,924.7	16.1	24.5
兵庫県	1,360.4	7.9	6.8	1,244.4	5.8	5.3	116.0	35.7	36.1
奈良県	222.0	4.7	-0.7	192.7	5.4	0.8	29.3	0.5	-9.2
和歌山県	376.4	1.6	-14.9	306.4	-2.5	-16.9	70.0	24.7	4.7
鳥取県	252.0	36.2	27.4	241.5	35.7	27.4	10.6	48.4	28.4
徳島県	214.7	8.2	10.5	202.2	7.7	10.0	12.5	16.4	19.7
関西2府4県	9,458.4	1.0	0.7	5,991.0	-6.3	-8.4	3,467.3	16.6	24.1
関西2府8県	10,896.8	2.3	2.3	7,385.6	-3.3	-4.6	3,511.2	16.5	24.0
全国	53,705.7	2.9	1.0	41,329.9	-1.8	-3.7	12,375.8	22.7	24.9

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」(図8~9及び表1)より筆者作成

トピックス 3

● 2024年7-9月期訪日外国人訪問率と消費単価：関西

▶ 2024年7-9月期における関西各府県の訪問率をみると(図11)、大阪府40.6%が最も高く、次いで京都府29.5%、奈良県9.7%、兵庫県5.1%、和歌山県1.3%、三重県0.7%、滋賀県0.6%、徳島県0.3%、鳥取県0.3%、福井県0.2%と続く。前年同期と比較すると(表2)、大阪府(+1.1%ポイント)、奈良県(+1.1%ポイント)、福井県(+0.1%ポイント)、鳥取県(+0.1%ポイント)、徳島県(+0.1%ポイント)はいずれも上昇。一方、京都府(-0.7%ポイント)、兵庫県(-0.6%ポイント)、滋賀県(-0.3%ポイント)、三重県(-0.1%ポイント)、はそれぞれ低下した。なお、和歌山県(0.0%ポイント)は横ばいであった。

▶ 当該期間の各府県の訪問率に訪日外客数を乗じて推計した関西における訪日外客数を要約しておこう。推計された2024年7-9月期の訪問者数を降順にみれば(表2)、大阪府が369万4,306人(前年同期比+40.4%)と最も多く、次いで京都府が268万1,492人(同+33.4%)、奈良県が88万6,546人(同+53.3%)、兵庫県が46万7,461人(同+22.0%)、和歌山県が12万1,656人(同+40.1%)、三重県が6万3,871人(同+14.9%)、滋賀県が5万324人(同-13.6%)、徳島県が2万8,060人(同+88.3%)、鳥取県が2万4,966人(同+126.4%)、福井県が1万8,570人(同+103.3%)と続く。訪問者数の前年同期比をみると、滋賀県が唯一減少した。

▶ 表3は2024年7-9月期の関西における訪日外国人消費単価(旅行者1人1回当たりの旅行消費金額)を示している。関西2府4県では前年同期比+16.3%増加した。費目別にみれば、交通費(同+79.8%)、宿泊費(同+61.3%)や飲食費(同+45.7%)が大幅増加した一方、娯楽等サービス費(同-5.9%)や買物代(同-1.2%)は減少した。

▶ 観光庁によれば、2024年7-9月期の関西における訪日外客消費額は4,746億円となり(表3)、前年同期比+30.6%大幅増加した(4-6月期：同+63.0%)。同期の全国の消費額*は1兆9,186億円、同+39.0%となり(4-6月期：同+73.7%)、関西は全国の伸びを幾分下回った。7-9月期は自然災害の影響もあり、訪日外客消費額は全国、関西ともに前期から減速した。なお、関西の訪日外客消費額の全国シェアは24.7%となった(24年4-6月期：25.3%)。

*全国の消費額については本レポートNo.64を参照。

図11 訪日外国人訪問率の推移：関西2府8県

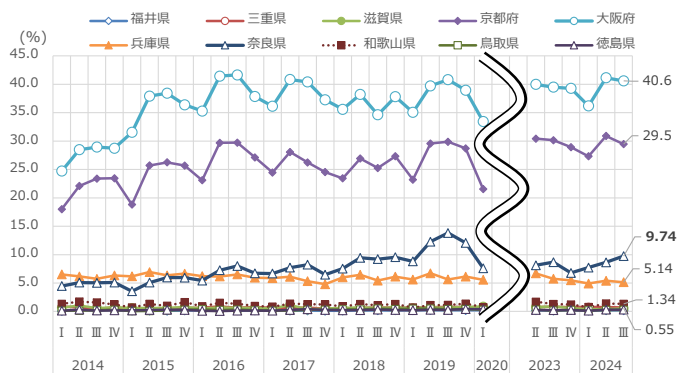


表2 訪日外客の訪問率と人数：関西2府8県

府県ベース	23Q3	24Q3	前年差	府県ベース	23Q3	24Q3	前年比伸び率
福井県	0.1	0.2	0.1	福井県	9,134	18,570	103.3
三重県	0.8	0.7	-0.1	三重県	55,596	63,871	14.9
滋賀県	0.9	0.6	-0.3	滋賀県	58,247	50,324	-13.6
京都府	30.2	29.5	-0.7	京都府	2,009,368	2,681,492	33.4
大阪府	39.5	40.6	1.1	大阪府	2,631,290	3,694,306	40.4
兵庫県	5.8	5.1	-0.6	兵庫県	383,242	467,461	22.0
奈良県	8.7	9.7	1.1	奈良県	578,278	886,546	53.3
和歌山県	1.3	1.3	0.0	和歌山県	86,842	121,656	40.1
鳥取県	0.2	0.3	0.1	鳥取県	11,026	24,966	126.4
徳島県	0.2	0.3	0.1	徳島県	14,903	28,060	88.3

運輸局ベース	23Q3	24Q3	前年比伸び率	運輸局ベース	23Q3	24Q3	前年比伸び率
北海道	7.2	6.7	-0.4	北海道	477,259	613,846	28.6
関東	54.3	54.0	-0.3	関東	3,617,639	4,910,799	35.7
中部	9.5	11.2	1.6	中部	635,279	1,015,953	59.9
近畿	42.9	43.5	0.6	近畿	2,860,529	3,958,098	38.4
九州	12.4	11.4	-1.0	九州	825,371	1,034,150	25.3

出所:JNTO『訪日外客統計』及び観光庁『インバウンド消費動向調査』より推計。

表3 費目別訪日外国人消費単価の比較：関西2府4県

	消費単価	費目別(7区分)						
		宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等サービス費	買物代	その他	
2023年7-9月期 (万円/人)	滋賀県	4.2	0.6	0.6	0.0	0.0	1.1	0.0
	京都府	5.0	1.8	1.2	0.1	0.2	1.0	0.0
	大阪府	9.4	2.5	1.9	0.3	0.7	3.2	0.0
	兵庫県	2.4	0.7	0.8	0.1	0.1	0.5	0.0
	奈良県	0.9	0.3	0.3	0.0	0.0	0.2	0.0
	和歌山県	4.4	1.7	0.8	0.1	0.0	0.3	0.0
	2府4県	4.4	1.3	0.9	0.1	0.2	1.1	0.0
2024年7-9月期 (万円/人)	滋賀県	8.3	4.2	3.0	0.5	0.0	0.3	0.0
	京都府	5.0	2.0	1.2	0.2	0.2	1.0	0.0
	大阪府	8.9	2.5	1.8	0.2	0.5	3.4	0.0
	兵庫県	3.9	1.5	1.1	0.1	0.1	0.9	0.0
	奈良県	0.9	0.2	0.3	0.0	0.1	0.2	0.0
	和歌山県	3.6	1.9	0.7	0.1	0.1	0.5	0.0
	2府4県	5.1	2.0	1.4	0.2	0.2	1.0	0.0
前年度比(%)	滋賀県	96.5	619.7	375.3	4,481.7	54.3	-74.0	-
	京都府	0.6	9.8	0.7	12.8	1.8	-7.2	-
	大阪府	-4.8	-0.5	-5.6	-18.2	-32.4	6.1	-
	兵庫県	60.9	123.8	41.7	33.8	53.2	81.8	-
	奈良県	-2.8	-32.4	-7.5	17.7	83.3	-2.0	-
	和歌山県	-18.1	8.3	-1.7	-23.3	177.9	68.0	-
	2府4県	16.3	61.3	45.7	79.8	-5.9	-1.2	-

訪日外客消費額	23年7-9月期 (万円)	24年7-9月期 (万円)	前年同期比 (%)
関西2府4県	36,323,963	47,456,895	30.6
全国	138,010,000	191,860,000	39.0

(注)全目的ベース。2023年は確報、24年7-9月期は速報(上図も同様)。消費単価にはパッケージ参加費が含まれる。
出所:観光庁『インバウンド消費動向調査 参考表都道府県別集計』より作成。

表4 2024年11月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2023年	2024年	伸率(%)	2023年	2024年	伸率(%)
	11月	11月		1月~11月	1月~11月	
総数	2,440,890	3,187,000	30.6	22,332,235	33,379,900	49.5
総数(中国除く)	2,182,547	2,640,700	21.0	20,219,552	27,003,000	33.5
韓国	649,877	749,500	15.3	6,175,768	7,950,300	28.7
中国	258,343	546,300	111.5	2,112,683	6,376,900	201.8
台湾	403,498	488,400	21.0	3,802,934	5,553,200	46.0
香港	200,428	227,100	13.3	1,863,322	2,397,800	28.7
タイ	114,108	118,000	3.4	869,736	1,002,200	15.2
シンガポール	86,052	95,800	11.3	477,572	555,000	16.2
マレーシア	51,386	62,000	20.7	354,906	435,200	22.6
インドネシア	42,135	48,800	15.8	365,686	442,600	21.0
フィリピン	63,718	87,100	36.7	543,186	710,100	30.7
ベトナム	46,793	50,200	7.3	536,869	581,100	8.2
インド	16,553	23,500	42.0	152,879	216,000	41.3
豪州	59,571	80,300	34.8	523,591	807,800	54.3
米国	184,769	247,500	34.0	1,862,688	2,486,100	33.5
カナダ	38,959	47,300	21.4	389,433	531,100	36.4
メキシコ	9,859	13,500	36.9	85,603	139,800	63.3
英国	29,509	37,000	25.4	297,605	406,800	36.7
フランス	24,182	31,100	28.6	259,704	364,300	40.3
ドイツ	18,629	25,200	35.3	221,600	310,100	39.9
イタリア	13,379	20,800	55.5	141,745	214,600	51.4
スペイン	11,007	18,800	70.8	109,512	171,800	56.9
ロシア	5,914	13,900	135.0	38,710	93,400	141.3
北欧地域	9,423	12,300	30.5	105,718	140,100	32.5
中東地域	7,952	19,100	140.2	102,330	153,700	50.2
その他	94,846	123,500	30.2	938,455	1,339,900	42.8

表5 2024年9月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2023年	2024年	伸率(%)	2023年	2024年	伸率(%)	2023年	2024年	伸率(%)	2023年	2024年	伸率(%)
	9月	9月		9月	9月		9月	9月		9月		
総数	2,184,442	2,872,487	31.5	1,905,162	2,544,751	33.6	97,835	103,703	6.0	181,445	224,033	23.5
韓国	570,369	656,753	15.1	540,704	621,515	14.9	14,395	14,781	2.7	15,270	20,457	34.0
中国	325,645	652,405	100.3	240,126	543,989	126.5	21,230	24,972	17.6	64,289	83,444	29.8
台湾	385,259	470,635	22.2	371,132	453,133	22.1	7,103	8,069	13.6	7,024	9,433	34.3
香港	151,137	170,216	12.6	147,515	165,851	12.4	1,856	1,953	5.2	1,766	2,412	36.6
タイ	50,492	45,522	-9.8	45,165	39,987	-11.5	1,923	2,088	8.6	3,404	3,447	1.3
シンガポール	38,105	37,433	-1.8	35,729	34,760	-2.7	1,943	2,159	11.1	433	514	18.7
マレーシア	27,543	39,905	44.9	24,472	36,731	50.1	1,450	1,283	-11.5	1,621	1,891	16.7
インドネシア	32,354	35,081	8.4	21,291	22,817	7.2	1,356	1,523	12.3	9,707	10,741	10.7
フィリピン	42,763	46,618	9.0	34,381	36,727	6.8	3,016	3,874	28.4	5,366	6,017	12.1
ベトナム	43,004	45,857	6.6	11,109	9,465	-14.8	3,041	3,018	-0.8	28,854	33,374	15.7
インド	14,102	17,865	26.7	6,752	9,133	35.3	3,967	4,624	16.6	3,383	4,108	21.4
豪州	64,005	85,667	33.8	60,869	82,616	35.7	2,202	2,005	-8.9	934	1,046	12.0
米国	156,637	191,942	22.5	140,502	174,091	23.9	11,016	11,625	5.5	5,119	6,226	21.6
カナダ	39,822	49,981	25.5	37,861	47,798	26.2	1,098	1,045	-4.8	863	1,138	31.9
メキシコ	10,131	14,972	47.8	9,522	14,312	50.3	300	328	9.3	309	332	7.4
英国	29,702	37,413	26.0	24,452	32,616	33.4	3,125	2,822	-9.7	2,125	1,975	-7.1
フランス	22,034	30,745	39.5	17,622	26,029	47.7	2,130	2,074	-2.6	2,282	2,642	15.8
ドイツ	26,283	37,092	41.1	21,877	32,684	49.4	2,671	2,521	-5.6	1,735	1,887	8.8
イタリア	14,605	19,592	34.1	11,947	17,349	45.2	1,459	1,334	-8.6	1,199	909	-24.2
ロシア	4,294	10,187	137.2	3,010	8,622	186.4	554	695	25.5	730	870	19.2
スペイン	13,192	19,052	44.4	11,850	17,778	50.0	763	618	-19.0	579	656	13.3
中東地域	13,549	14,194	4.8	12,305	12,725	3.4	658	762	15.8	586	707	20.6
その他	109,415	143,360	31.0	74,969	104,023	38.8	10,579	9,530	-9.9	23,867	29,807	24.9

注) 目的別訪日外客数の定義については、図3注参照。

出所: 日本政府観光局(JNTO)、2024年12月18日付より筆者加工